

# サンディエゴ日本人教会トピックス【2018年6月】

梅雨が去ると本格的な夏の暑さがやって来るといわれておりますが、日本では雨季の後の猛暑に見舞われ、さぞ皆様お過しにくいことかとお察しするばかりです。ここサンディエゴでは真夏がやってきて、日中はさんさんと輝く日差しをうけ、気温もかなり上がりますが、結構しのぎやすく、真っ青な青空には白雲が漂って、街路樹も青々と輝いています。この温暖な地に住める幸いを、神様に感謝いたします。

6月は新しい教会年度の始まりの月で、教会総会や婦人会がもたれ、新年度へのビジョンを掲げて始まりました。24日の礼拝の中で、ディアスボラ伝道をしておられるリチャード中村先生が宣教レポートをしてくださいました。お働きの上に神様の豊かな御祝福をお祈りいたします。

その後、皆さんいかがお過ごしでしょうか。神様の豊かな祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. 教会総会：ビジョンを掲げて！
2. 婦人会総会
3. 婦人会での証：コラネリ美佐子姉

## 1. 教会総会：ビジョンを掲げて！

2018年6月10日（日）は礼拝のあと、八尋ホールでは当教会の総会がもたれました。礼拝プログラムの表紙には、新しい標語、サンディエゴ教会のミッション・ステートメントが掲げられました。

「育：GROW 共：SHARE 宣：REACH」という宣教のビジョンです。

「私達の使命は神様から与えられている賜物を用いて日本、アジア、そして全ての国の人々とキリストにあって共に成長し、神の言葉を分かち合うことである」



教会総会の報告の中で、大倉先生は「サンディエゴ教会の将来に対するビジョン」について詳しく説明され、今までの長い間、合同役員会をはじめ多くのミーティングを重ねてこられ、今回新しくサンディエゴ教会の宣教ステートメントを基に色々な話し合いがなされ、その内容を説明してくださいました。このミッション・（宣教）ステートメントの内容が、今後の教会の発展に伴い、合致していると信じ、教会の皆さんに分かち合ってくださいました。（詳細は省く）

新しい一年も、主に信頼し、励んで奉仕し、喜んで主に仕える教会となるよう祈りあいましょうと話され、一同希望を抱いて祈りつつ進んで行こうと各自決意を新たにした総会となりました。

## 2. 婦人会総会

婦人会総会は、今月のお当番さん方の司会で、祈りを持って始められました。役員さん方により新しく役員に選挙された方々が紹介され、良き引継ぎがなされました。二年満期でやめられる方に対し、長い間陰にあって尊いお働きを深く感謝しますと、一同はそのお働きに暖かい拍手を持って感謝を表しました。

婦人会の規則にあるように婦人は、教会の陰の力として働くことを基本とし、陰にあって多くの行事に仕え、教会の大きな力となっています。その役割の大きさを、一同、感謝しています。月々のお当番さんは、その月の行事、出来事に奉仕し、婦人会当日には責任を持って司会を始め、祈り、聖書拝読、証者などを立てて会を進めます。

役員さん方を始め、お二人の顧問、そして各月に奉仕される月のお当番さん方に、尊いお働きを深く感謝いたします。

## 3. 婦人会での証：コラネリ美佐子姉

今朝の礼拝で、三曲目の賛美は「父の涙」でした。前奏で、奏ちゃんのフルートが聞こえた瞬間、私は神様への感謝で満たされ、とめどもなく涙が流れました。

私の愛する日本。私が育ったのは、戦後、尺貫法からメートル法に代わろうとする時代、国旗掲揚、君が代斉唱され、伝統的な規律の中で民主主義、男女同権が謳われ、本音と建前を心得とする社会でした。

当時の私は、両親の保護のもとに、おおよそ苦勞を苦勞とも感じず、伸び伸びと少女時代を過ごしました。しかし、8歳の頃に初めて人の命の最後、死の現実を目の当たりにして、言いしれぬ恐怖と戸惑いを覚えました。

小学校卒業間近に配布された、数々の中学校案内書の中から、私は、何かひかれるものを感じて、カトリック系中学校に入学しました。それまで私は、自由で楽

な環境にいましたが、全く予備知識もなく飛び込んだ新しい環境は、私にとって一種のカルチャーショックでした。激しい競争社会のこの学び舎は、肉体的、精神的に自分の限界や弱さを教えると同時に、誰にも言えない私の内にある暗いものをも示してくれました。

その間、伊勢湾台風で幼な友達が亡くなり、部活で交わった一年上級の友の自殺、若い従兄弟の病死、幼い私を可愛がってくれたお隣のふうちゃんの事故死に出会い、特に従兄弟の死は、私の心に焼きつき、イエス様を知るまで私を苦しめました。

学業に励み、学友たちと交わる傍ら、私は、自分の内外の不条理に、生きる目的、自分の存在価値を模索しました。このような私を支えてくれたのは、大学講堂の入り口にあった、「人間の尊厳」と言う、何人たりとも侵すことのできない人の価値、真実を思わせる言葉でした。

自分がベストと思って選んで歩いてきたはずの人生でしたが、結婚して三人の子の母となり、体調不良とともに以前にも増して深刻な限界を感じ、切実に私を助けてくださる大きな力ある存在を求めようになりました。

日本では、神道、仏教、その他諸々の霊的な慣習が溶け込んでいますが、私には、真の「神」はお一人しかいないと思えました。しかし、新約聖書を読んで、イエス様が正しい事は分るのですが、神の子であることを信じる事ができませんでした。と同時に教会へ行きたい気持ちが、益々募っていました。

そんな時、神様の哀れみにより、初めて参加した家庭集会で、イエス様と、聖書の全てが、神の言葉であると信じる心にかえられました。先週の礼拝メッセージで語られた詩篇 139 篇の神様、この私を、私よりも知り尽くされていながら、すっぽりと包み込んでくださる神様とのリレーションシップが、その日始まりました。その喜びは、イエス様がお話しされた、失ったコインをようやく見つけ出し、大喜びしてじっとしてられない女性の喜びのようでした。日本の文化の中で染み着いた、様々な迷信や惑わしも消えました。今や、私のより頼む方は、とこしえに 全能の神、義なる神、慈しみ深い救い主、イエス様お一人です。ハレルヤ！

その後2年半は、主人の仕事の関係でサンディエゴから離れ、教会や家庭集会にもつながらずにはありませんでしたが、戻ってから、イースターにナザレン教会へ導かれ、初めての礼拝で、イエス様が神の子、「救い主」であると同時に、私の人生の「主」であることを教えられました。それを知らされてからも、私の強い私は抵抗しました。すると、母の日に、「アメージンググレイス」を子守唄に歌う母親のお話がありました。その時、私も、何よりも大切なイエス様を伝える母になりたくて、「どうか、私の主となってください。」と、ついに御前に膝まずきました。いつも優しく「ただ信じなさい。」と語りかけて下さるイエス様に自分を明け渡した時、私の内を満たした平安を何にたとえられましょうか。イエス様を「主」と仰ぐ人生は、なんと幸いなことでしょうか！ ハレルヤ！

あれからの48年間を振り返ると、イエス様にしたがって歩む人生は、しっかりした足取りで進む時、ゆっくり歩く時があり、時にはよそ見をしながらも、イエス様は私の手をしっかりと握っていてくださいました。

**「苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。」(詩篇 119:71)**

もっと苦しみにあいたいとは思いません。ただ、私に与えられた苦しみは、私に合った分でした。

日々、大小様々な喜怒哀楽の色彩で織りなされる人生で、「イエス様、どこにいらっしゃるのですか。」と思えそうな辛い試練の時は、それゆえにイエス様の真実を体験し、私の信仰を次の次元へと進めてくださいました。その積み重ねは、何にも代えられない恵みです。

次週の金曜日に運転免許証更新のテストを予定していた私は、テストの準備に集中するつもりでいたところ、夏休みに入った孫たちの子守を頼まれました。9歳になる三つ子の孫たち(信・望・愛)は、私の喜びです。と同時に、この年の私は疲れやすいのも事実です。少し躊躇しながらも、いつものように引き受けました。そしてその週は、思いがけない出来事で始まりました。

日曜日、その日は、朝 4 時ごろに主人が一人でロスアンゼルスへ出かけました。私は、「彼をお守りください。」と祈り、また眠りました。

30 分ほどして、主人から電話が入りました。

高速 805 と、I-15 のところで事故にあったから来てくれと言うのです。詳しくは聞きませんでした。電話の声はいつもと変わらななので、神様に感謝しながらすぐに出ました。何が待っているかわからない私は、「イエス様、助けてください。」と心で繰り返していました。まだ外は暗く、道路脇に落ちたかもしれないと、辺りを見ながら進むと、言われた場所に来ても見つかりません。「彼のところへ導いてください。」と祈り、次の出口を出るとそこに主人がいました。

主人は、警察官と話し合っていました。聞いていると、他の車が、彼のいた車線に入ってきて当てたので、避けようとしてハンドルを切り、中央のコンクリートの壁にぶつかったということでした。また、とっさのことで相手の車のことはあまり覚えていないとか、とても緊張していたと言う彼を気の毒に思いながら、読んでいる DMV のマニュアルに、時速 30 マイルでぶつかると、ビルの三階から落ちるのと同じ衝撃と記されていたのを思い出しました。彼の車は、70 マイルほどは出していたでしょう。帽子の上からガラスの破片で頭に切り傷が数カ所あること、腰が痛むことを後で知りましたが、レントゲンは異常なく、「また守られたね！」と、二人で神様に感謝しました。車は、見るだけで怖くなるほど大破して、今も修理中です。

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい計り知ることのできない神の平安が、心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。」(ピリピ 4:6-7) ハレルヤ！

日頃、このみ言葉で、ともすると揺らぐ私の心はいつも軌道に戻されてきました。

私は、一日を通してあらゆることでイエス様に語りかけます。すると、聖書の言葉が浮かびます。時には、今まで気づかなかったことにハッとすることもあります。

今回、私たちが立てた予定はその通りに行きませんでした。

突然身近に起きた初めての大きな交通事故で、心身ともに疲れしました。またまた自分の無力を見ました。私にできることは目の前が限界です。 祈りとは呼べそうにない思いで、「イエス様！」と、主を仰ぐだけの私でしたが、私に足りない分は、それ以上に、私の内におられる聖霊様が代わってくださいますから、まことに感謝なことです。 ハレルヤ！

私の信頼する方は、無限の力ある慈しみに満ちた神様です。その方が、「重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」と言われました。そして、全てを相働かせて、神様のご栄光になるほどの益としてくださる方は、スズメが落ちるのもご存知です。

今再び、今日あるのは、ひとえに神様の憐れみによることを、かみしめています。

私の信仰は、パウロのように自分の弱さを誇る信仰には到達いたしません。

ただ、私は私らしく、明日をお委ねして、置かれたところで、 今日一日を主に従っていきたいと、心から願ってやみません。SDG！

ラッドとし子